

※インターネット「はらまち九条の会」で、「九条はらまち」の全号を見ることができます。



九条はらまち

「はらまち九条の会」ニュース **No. 8 2**
2008(平成20)年12月1日(月)発行

＜1943(昭和18)年12月1日、学窓から軍隊へ、学徒出陣兵第1陣入営の日＞

◆戦争末期、戦況も不利となり日本の青年は学業を続けることも許されなくなった。10月21日には神宮外苑で大壮行会が行われ、12月1日から戦争に直接貢献できる理工系の学生を除き、適齢に達した学生は、ことごとく入隊、いわゆる学徒出陣となった。◆学生服の肩から日の丸を掛けて「学徒兵」は営門をくぐった。残った者もほとんどが勤労働員となる。戦没した学生の数さえいまだ確定していない。

※この欄は毎回、筑摩書房発行・中野好夫編『一日一史』などを参考にしています。＜訂正＞No.77の「千羽鶴の少女佐々木禎子さんの命日」は10月2日と記録しましたが、10月25日の誤りでした。



今年二〇〇八(平成二十)年は敗戦から六十三年、テレビではさまざまな「戦争と平和」を考える番組が放送され、とりわけ「憲法第九条」に関する番組が多く、右のような評価の高い番組もありました。皆さんが感動され、印象に残っている番組は?

真宗大谷派僧侶 竹中彰元

「戦争は罪悪。
この戦争は侵略である」

試写室

宗教の責任を問い直す



(竹田さより)

戦争は罪悪である
ある仏教者の名譽回復、
★教育 夜10・00
日中戦争が始まった1937年、「戦争は罪悪。この戦争は侵略である」と説き、検査された真宗大谷派の高僧がいた。この僧侶の名譽回復を通して、「宗教者の戦争責任」について考える。
竹中彰元 写真。1967年 生まれの彼は、若い門徒たちの
出征に心を痛め、検査されても信念を曲げず、本山から布教使の資格を奪われた。終戦直後、ひっそりこの世を去る。その存在は忘れられていたが、ある若い僧の研究により知られることとなった。昨年、本山は竹中僧侶の名譽回復に踏み切った。
発見された取り調べ記録や関係者の証言で、本来、殺生を禁じた仏教界がいかに教義を曲げていったかが浮き彫りになる。「平和のための聖戦」「多くを生かすため、少しの殺生はやむを得ない」。いまでも世界のどこかで聞く言葉ではないか、とハッとした。

二〇〇八年十月十二日付 『朝日新聞』

今年、テレビ放映された「戦争と平和」を考える特集番組

- ① 3月10日TBSテレビ『3月10日東京大空襲』(2時間) 警視庁写真係のドラマ構成、バグゲータ筑紫哲也。
- ② 5月29日テレビ朝日・報道ステーション『日本の憲法9条がアフリカを変える』日本ではないがしるにされてきた第9条ですが、諸外国では将来の世界や人類のあり方として“9条をえらび始めている”のです。
- ③ 8月2日テレビ朝日『原爆』長崎爆心地の微笑の少女をさがす。日本にもあった原爆開発計画など。
- ④ 8月7日NHKスペシャル『解かれた封印・米軍カメラマンが見たNAGASAKI』(50分) ジョー・オダネルが被爆後の長崎で撮影した「焼き場に立つ少年」。やがて来日、その少年を捜し出そうとし、被爆者との再会話なども。
- ⑤ 8月15日NHKスペシャル『果てなき消耗戦・レイテ決戦』戦争指導者の無謀さ、愚かさ、無責任さ。
- ⑥ 8月17日NHKスペシャル『日本軍とアヘン』(60分) 戦争のためならこんなひどいことも平気でやってしまう。
- ⑦ 8月27日NHKその時歴史が動いた『模擬原爆パンブキン』(45分) 福島市にも模擬弾が投下された。
- ⑧ 9月2・3日NHKその時歴史が動いた・日本降伏『焦土に玉音が響いた』『降伏調印』
- ⑨ 9月15日NHKスペシャル『ママはイラクへ行った』戦争を起こしたアメリカ自身が実は最大の犠牲者です。
- ⑩ 10月12日NHK教育『戦争は罪悪である・竹中彰元』戦争に協力した仏教界にもこんな立派な人がいた。
- ⑪ 11月18日NHKスペシャル『微笑と虐待、証言アブグレイブ刑務所事件』「テロとの戦い」は口実です!
- ⑫ 12月7日NHKドラマ『最後の戦犯』(2時間) 軍の命令に従わざるをえない、実話に基づく一兵卒の悲哀。
- ⑬ 12月8日NHKスペシャル『引き揚げはこうして実現した、旧満州・葫蘆島(ころとう)への道』
- ⑭ 12月15日TBSテレビ特集『ヒロシマ』2005年8月5日の再放送。バグゲータ筑紫哲也。文化庁芸術祭大賞。

※これらの番組は、ダビングしてビデオテープでお分けできます。事務局にお申し出下さい。

「九条の会」が高校教科書に登場

清水書院 発行 「高等学校 現代政治・経済 改訂版」
もちろん 文部科学省検定済!

第1編

現代の政治



「九条の会」の講演会で会場を埋めた人たち。(2005年、東京都)

「九条はらまち」号外でお知らせしましたが、今年2008年4月から使用されている高校の「政治経済」の教科書(清水書院)に、「九条の会」が登場しています。

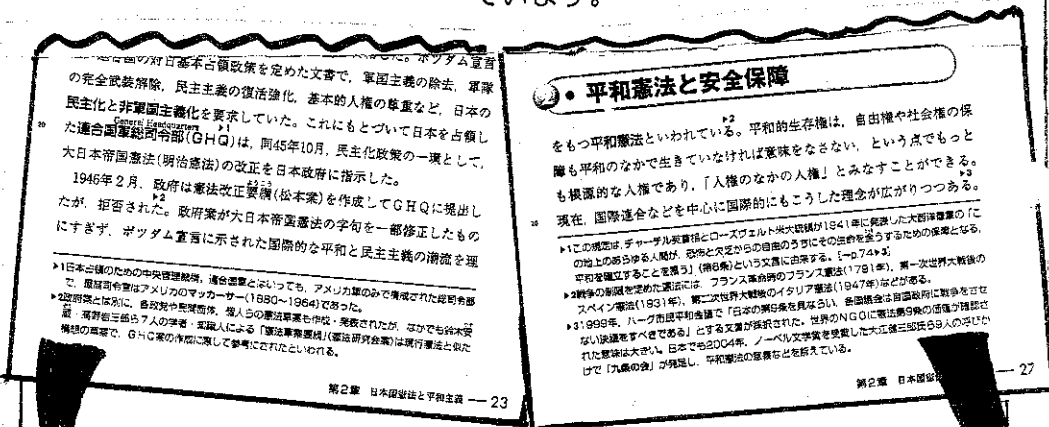
●<左コピー>は教科書の冒頭第1編の中表紙ですが、「全国九条の会・2005年の有明講演会」の写真が、ページの上半分に大きく掲載され説明がついています。

●<下コピー>本文27ページ平和憲法の脚注で「九条の会」が紹介され、また23ページ現行憲法成立過程の脚注では「憲法研究会案」や「鈴木安蔵」らの業績もしっかり記述されています。

●憲法第9条に対する国際的な高い評価や、日本の「九条の会」が平和理念拡大の動きとして紹介され、「会」の発足から4年でようやく市民権を得たこととなります。この教科書が多く的高校で採用され、若い世代に9条の意義がさらに伝わればいいと思います。

○教科書購入は、教科書取次書店か、直接「清水書院」にご注文ください。

○この教科書のコピーや掲載については、清水書院様のご理解とご承諾をいただいています。



● 平和憲法と安全保障

をもつ平和憲法といわれている。平和的生存権は、自由権や社会権の保障も平和のなかで生きていなければ意味をなさない、という点でもっとも根源的な人権であり、「人権のなかの人権」とみなすことができる。
現在、国際連合などを中心に国際的にもこうした理念が広がっている。
1 この規定は、チャールズ・ルーズベルト大統領が1941年に発した大戦時宣言の「この地球上のあらゆる人間が、恐怖と欠乏からの自由のうちにその目的を遂げるための権利をもち、平和を享受することを得る」という文脈に由来する。[p.74*]
2 戦争の制限を定めた憲法には、フランス革命時のフランス憲法(1791年)、第一次世界大戦後のスペイン憲法(1931年)、第二次世界大戦後のイタリア憲法(1947年)などがある。
3 1999年、ハーグ市民平和会議で「日本の第9条を見ならぬ、各国議会は自国政府に戦争をさせない決議をすべきである」とする文書が採択された。世界のNGOに憲法第9条の価値が確認された意味は大きい。日本でも2004年、ノーベル文学賞を受賞した大江健三郎氏ら9人の呼びかけで「九条の会」が発足し、平和憲法の意義などを訴えている。

▶1 日本占領のための中央管理機構。連合国軍とはいっても、アメリカ軍のみで構成された総司令部で、最高司令官はアメリカのマッカーサー(1880~1964)であった。
▶2 政府案とは別に、各政党や民間団体、個人らの憲法草案も作成・発表されたが、なかでも鈴木安蔵・高野岩三郎ら7人の学者・知識人による「憲法草案要綱」(憲法研究会案)は現行憲法と似た構想の草案で、GHQ案の作成に際して参考にされたといわれる。

▶2 戦争の制限を定めた憲法には、フランス革命時のフランス憲法(1791年)、第一次世界大戦後のスペイン憲法(1931年)、第二次世界大戦後のイタリア憲法(1947年)などがある。
▶3 1999年、ハーグ市民平和会議で「日本の第9条を見ならぬ、各国議会は自国政府に戦争をさせない決議をすべきである」とする文書が採択された。世界のNGOに憲法第9条の価値が確認された意味は大きい。日本でも2004年、ノーベル文学賞を受賞した大江健三郎氏ら9人の呼びかけで「九条の会」が発足し、平和憲法の意義などを訴えている。

この教科書・出版社は
「高等学校 現代政治・経済 改訂版」
(定価430円)
教科書番号<35/清水
/政経024>
〒102-0072
東京都千代田区飯田橋
3丁目11番6号
株式会社清水書院
Tel.03-5213-7151